

中部圏の将来ビジョン

～2050年を見据えた中部圏の広域的な地域づくり～

1. はじめに

人口減少、デジタル技術革新など、社会・産業構造は急速に変化しており、将来に向けてリスクや課題への対応が、これまでになく求められている。

中部圏は経済面では比較的豊かと言われ、産業も好調だが、その将来像はこれまでの常識や成功の延長線上にはない。将来に向けて、現状維持では埋没しかねないという「危機感」を持つ一方で、リニア中央新幹線開業のチャンスもあり、今こそポストオリンピックの投資を呼び込む最大の機会と捉えている。

中経連では、産学官が将来に向けての危機感を共有し、行政の枠組みを超えた「広域視点での構想が必要」との考えからビジョンを策定した。

本ビジョンは、圏域発展に向けた産業の方向性を示し、その実現に必要な「地域のあり方」を提案している。概要は以下のとおり。

2. 2050年を見据えた課題意識

1. 社会構造の変化

- ・少子高齢化、生産年齢人口の減少、インフラ老朽化、環境の悪化、世界人口の増加、環境問題等

これらを踏まえると→ 飛躍的な生産性の向上、スマート社会の構築、国土強靱化、人口減を踏まえた快適な生活空間の形成等が重要課題

2. 産業構造の変化

(1) 第1次産業

- ・国内農業人口の大幅な減少と高齢化（従事者は約100万人に半減）

(2) 第2次産業

- ・自動運転車の実用標準化など新たな技術の活用へのシフトや新素材の開発等
- ・海外シフト、シェアリングの普及による生産規模の縮小等で国内製造業従事者が減少

(3) 第3次産業

- ・環境対応、デジタル技術の目覚ましい革新や世界規模の対流・交流活発化等

これらを踏まえると→ イノベーション、新世代の成長産業の創出、産業のスマート化、観光等による対流・交流の創出等が重要な課題

3. 中部圏の課題

1. 中部圏のSWOT分析

S 強み	・ものづくり産業の集積 ・暮らしやすい環境 ・歴史と文化に溢れる豊富な観光資源 ・豊かな自然と一体の大きな一つの圏域
W 弱み	・情報産業の集積が極めて薄い ・安定志向が強く、保守的な土地柄 ・デザイン思考の強い製品開発、地域づくりに課題がある ・地域のグローバル化が進んでいない
O 機会	・デジタル技術の革新 ・スーパー・メガリージョンの中心に位置
T 脅威	・自動化・EV化・シェアリング等による自動車産業の縮小懸念 ・東京一極集中の加速、ストロー現象の懸念 ・南海トラフ地震の発生懸念

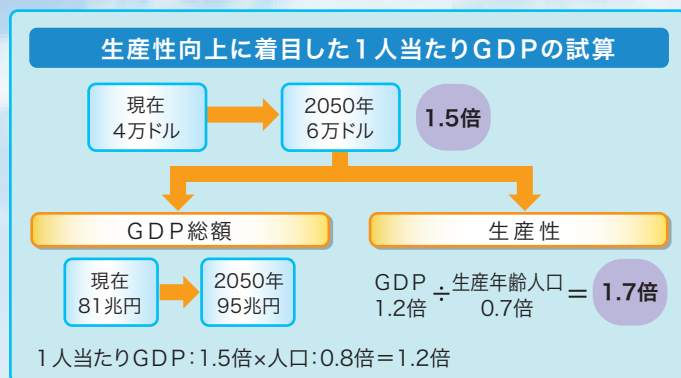
2. 中部圏の成り行きの姿

項目		2015年	2050年	変化率
人口	総人口	17,130千人	13,800千人	▲20%
	0～14歳	2,270千人	1,530千人	▲33%
	15～64歳	10,230千人	7,130千人	▲30%
	65歳～	4,630千人	5,140千人	+11%
GDP	総額	81兆円	56兆円	▲30%
	円/1人当たり	4.7百万円	4.1百万円	▲13%
	\$/1人当たり	4.0万\$	3.5万\$	

出所：総務省「国勢調査」、内閣府「県民経済計算」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」のデータより試算

2013年に財政破綻したデトロイトの事例

- ・かつては、全米一の自動車産業都市として発展
- ・自動車産業の生産拠点が郊外に移転し、中間層、商業施設が郊外に流出。都心部は空きビル、空き家が増加
- ・産業移転、人口流出による税収減は、行政サービスの低下を招き、治安も悪化
- ・負のスパイラルでさらに人口が流出し、施設の廃墟化やまちのスラム化が進み、市は財政破綻
- ・いったん地域が荒廃すると再生に向けた復興の歩みは非常に困難



【生産年齢人口が減少する中、生産性向上は必要条件】

- ・中部5県は総人口2割減、生産年齢人口は3割減少。GDPが3割減少する負のインパクトは極めて強い
- ・中部圏の1人当たりGDPは約4万ドルであり、世界最高レベルであった2000年以降、米国、欧州先進国に次々と抜かれ、相対的地位が低下。米国並み(上位10位内)の6万ドル程度を目指すには、GDP総額で1.2倍、生産性で1.7倍程度の向上が必要となる

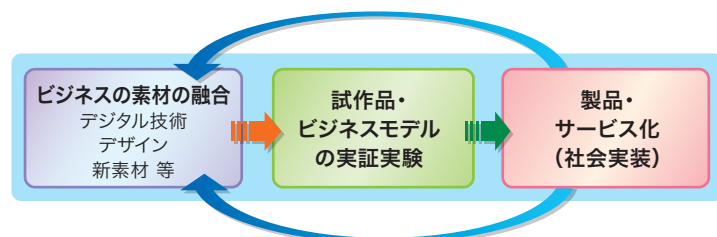
これらを踏まえると→ 中部圏は、現状維持からの脱却、強みであるものづくり基盤の活用とデジタル技術革新への対応で、生産性の飛躍的な向上と付加価値の高い産業への進化・シフトが必要

4. 中部圏が目指す将来像

1. ものづくり基盤とデジタル技術革新の融合で世界をリードする新世代の成長産業を創出する地域

- ・ものづくりの基盤は、中部圏最大の強みであり、さらなる磨き上げと活用は重要な課題
- ・デジタル技術革新を通じて、1・2・3次の各産業分類を超えた新しい産業創出が進行
- ・あらゆる産業との融合を図り、アイデアから製品化・サービス化(社会実装)までを超高速化し、一気通貫

アイデアから製品化までを超高速化し、一気通貫で実現し続ける地域



圧倒的なスピード化で新世代の成長産業を創出し、高い生産性と付加価値を生み出すイノベーション・エコシステムを構築

で新世代の成長産業を創出し、高い生産性と付加価値を持続的に生み出すイノベーション・エコシステムの構築が必要

中部圏が「ものづくり基盤とデジタル技術革新の融合による世界をリードする新世代の成長産業の創出」するために必要と考えられる主要な機能は以下のとおり。

ービジネスの素材の融合の観点

- ①中部圏内外からイノベーション人材が集い、対流・交流の場となるイノベーション拠点の整備
- ②研究機関や大学等の教育機関の高度化
- ③AI・IoT・ビッグデータ等をはじめとするデジタル技術分野の産業の集積

ー実証実験の観点

- ④都市空間・生活空間での実証実験を可能とする環境「アーバンチャレンジ特区」の創設

ー圧倒的なスピード化の観点

- ⑤5G、Beyond 5G等の大容量高速通信網の整備、データ・通信網の安全・信頼性確保
- ⑥イノベーション拠点と生産性の現場との速達性を高める交通ネットワークの整備
- ⑦新世代の成長産業の創出を活性化させるため、意思決定スピード化に相応しい首都機能の移転(経済産業省製造産業局等)

緑と風の道を確保しヒートアイランド現象を抑制

新世代の成長産業の創出拠点
イノベーション拠点やアーバンチャレンジ特区の創設による「交流・賑わいの核」の形成をイメージ



2. 人・もの・情報の対流・交流を創出し、世界から人を惹きつけ、投資を呼び込む地域

(1) 来訪者・居住者双方にとっての産業と地域の魅力向上

- ・長期滞在者、外国人の来訪者の受け入れに向けて、多言語対応、医療体制の整備、子弟の教育環境の整備等

- コミュニティでの受け入れが円滑に進むような人材の育成等

(2)新世代の成長産業の創出による社会的課題の解決

- SDGsやSociety5.0への対応も踏まえ、健康・医療・介護分野などにおいて地域の居住者が世代を超えて地域の課題に対して、それぞれ役割を担い、相互に支え合う「**地域共生型社会**」の実現

(3)中部圏産業の将来像実現に必要な環境

一産業の魅力を高めるために必要な環境

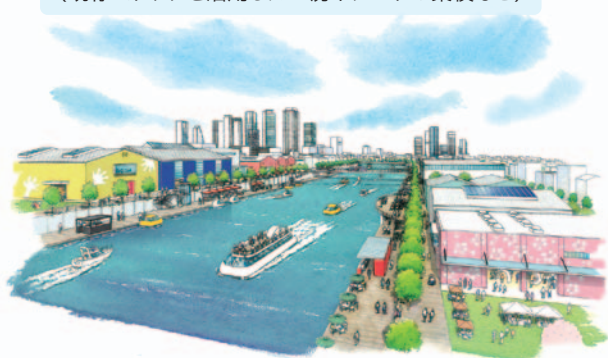
- ①イノベーション拠点を核とした研究開発やビジネスの分厚い集積
- ②海外一流大学のサテライトの誘致等、世界的研究機関とのネットワーク化
- ③中部圏の産業を担う人材を育成・確保する仕組みの強化
- ④新産業の創出を促すインキュベーション施設・ファンドの設立・充実
- ⑤環境負荷が圧倒的に低く、世界から注目される**スマート・エリア化**
- ⑥海外との往来の利便性を飛躍的に向上させる**中部国際空港二本目滑走路の整備**
- ⑦国際会議、グローバルMICE等の活発な開催による対流・交流の創出
- ⑧ダイバーシティ対応、意思決定のスピード化、生産性を高める働き方等の企業風土の醸成

一地域の魅力を高めるために必要な環境

- ①オープン化、デザイン思考、芸術、文化の充実等による**賑わいの創出**
- ②歩きやすさや**回遊性**を高める美しい景観の整備、まちの連続性の確保
- ③**緑化推進、水辺や自然を生かした安らぎ空間**の形成

水辺空間の活用

賑わいとアートの融合による感動空間のイメージ
(既存ストックを活用した工房やアートの集積など)



- ④投資家やVIP等、富裕層を呼び込む**5つ星クラスのホテルの立地**

- ⑤多様性を受け入れる環境の整備

- ⑥**安全・安心で快適な生活空間**の形成

3. 広域での連携・つながりの強化で持続的に発展する地域

(1)中部圏各地域のポテンシャルの発揮

- 中部圏の最大の特徴は、中心都市の名古屋とそれを取り巻く特色あるものづくりの集積
- 多様な機能を持った地域が相互に連携した重層的なものづくり基盤や山・森林・川・海など豊富な大自然を有する地域が広がっており、各地域の資源や魅力を生かしながら**圏域全体の魅力を一層高めることができるポテンシャル**
- 圏域内外とのネットワークを強化し、中部圏の各地域がそれぞれのポテンシャルを最大限に発揮するとともに**広域での連携強化**を図り、発展していくことが重要

(2)自然と都市の共生

- 都市部が、地域の対流・交流の拠点として、イノベーション・エコシステムのコアとなるとともに実証実験の環境を整備
- ものづくりの集積と都市部の連携によって、新世代の成長産業を創出
- 豊富な自然を有する地域は、その資源を活用し、農林水産業等の研究や現場として自然環境の保全と地域の発展を両立する**環境共生型の地域**の実現
- 大容量高速通信網や利便性の高い交通ネットワークを生かし、二拠点居住、テレワーク等、多様な価値観やライフスタイルが実現し、住みやすく働きやすい地域を志向

自然環境の保全と地域の発展を両立する中津川

森林等、地域資源を活用し、住民と来訪者の対流・交流を活性化



(3) 地域のポテンシャル発揮に必要な環境

- ①中部国際空港二本目滑走路の整備、名古屋駅や中部国際空港と各地域間の**移動時間短縮**
- ②各地域をつなぐ交通ネットワークの整備
- ③交通ネットワークとデジタル技術革新を活用した**物流の機能強化・スピード化**
- ④各地域をつなぐ5G・Beyond 5G等の大容量高速通信網の整備、データ・通信網の安全・信頼性確保
- ⑤研究機関や大学等の教育機関の高度化、ネットワーク化
- ⑥NAGOYAをゲートウェイとした広域観光地域づくり

5. 中部圏の将来像の実現に向けた重点プロジェクトとマイルストーン(事例)

- 中部圏が目指す方向性の実現に必要な機能や環境について、2050年を見据え、10年単位ごとにバックキャ

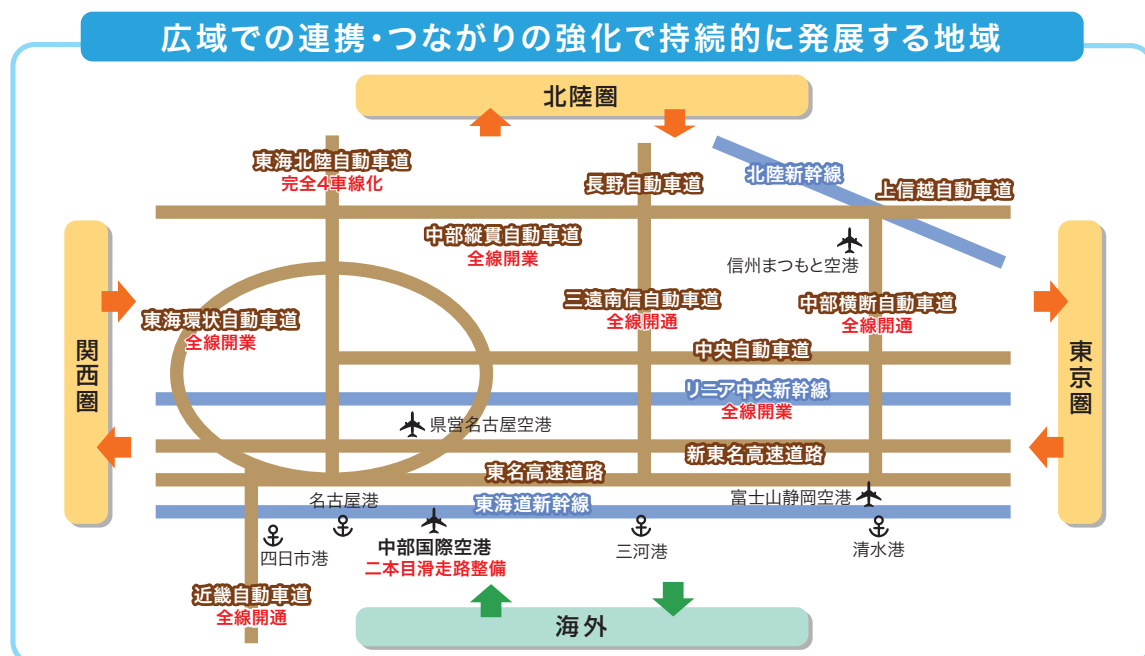
2020年頃	・イノベーション拠点が複数設置 ・都心で実証実験を行うアーバンチャレンジ特区が創設 ・5つ星クラスのホテル誘致が決定
2030年頃	・リニア中央新幹線の品川ー名古屋間が開業 ・中部国際空港二本目滑走路の整備 ・海外一流大学のサテライトが設置 ・大規模なイノベーションファンドが設立
2040年頃	・リニア中央新幹線が全線開業 ・イノベーション拠点がエコシステムのコアとして機能 ・研究機関や大学の教育機関の高度化、ネットワーク化 ・海外一流大学とのネットワーク化が実現

ストでまとめ、そのタイミングで何を実現すべきかをブレイクダウン

6. 今後の進め方

- ・ビジョン実現に向けては、まず地域の関係者と議論を進め、具体的な地域づくりと一緒に推進。行政計画への反映、地域のまちづくり団体との連携等の活動を推進
- ・2年目には地域と連携した具体的な実証活動の立ち上げを志向
- ・広域での地域づくりには、**強力なリーダーシップが発揮される、地域づくりを推進する仕組みが必要**
- ・中部圏の各地域が共有し、同じ方向を目指すことのできる広域的なグランドビジョンの策定とこれをベースに産学官の関係者で構成する「**中部圏広域地域づくり協議会**」(仮称)の創設を提案
- ・協議会には、県・政令都市・中核中枢都市等の自治体、中部圏を管轄する国の地方支分局、大学等の教育機関、経済団体等の参画を期待
- ・グランドビジョンを地域レベルに展開するためには、経済圏・生活圏・流域圏などの地域に則した分科会設置を検討
- ・協議会の具体的な枠組みの検討を進め、関係機関への働きかけを推進

提言書の詳細につきましては、中経連ホームページ(<http://www.chukeiren.or.jp/>)をご覧ください



【問い合わせ:企画部】